

実践と論考

「hana-TEM：アートで描くわたしの径路」

TEA と質的探究学会 第2回大会・研究交流委員会企画ワークショップ

発行：2024 年 3 月 15 日

土元 哲平（中京大学，立命館大学ものづくり質的研究センター）

上川 多恵子（創価大学）

中本 明世（甲南女子大学）

加藤 望（名古屋学芸大学）

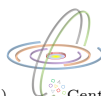
中坪 史典（広島大学）

抄 録

本稿では、2023 年 6 月 11 日に「TEA と質的探究学会 第2回大会」（於：立命館大学大阪いばらきキャンパス）にて開催された、hana-TEM ワークショップ（研究交流委員会企画）について報告する。特に、hana-TEM の理論的背景，準備した材料，当日例示した協力者の事例などの実際的な文脈，参加者の語りやアンケートを中心に報告する。hana-TEM は，精神を圧倒する複雑で豊かな「更一般化された情感的な記号領域」を探究・表現するために構想された。本ワークショップでは，花や石などの自然物を用いて TEM を描き，その作品を通して参加者同士が交流できる場の提供を目指している。また，TEM の基本的な思想である複線性と等至性を基礎としながらも，言語にこだわらずに，人生径路における「曖昧さ」や「複雑さ」をより豊かに表現する。参加者の作品として，ひとり暮らしを始めたことや「TEM との出会い」に至るまでのライフキャリアを題材とした hana-TEM が描かれた。展覧会は，参加者相互のやり取りのなかで自らの作品に対する思いが溢れ出し，熱気に包まれていた。最後に，hana-TEM は，個々人の「更一般化された情感的な記号領域」を深め，それを他者に理解可能なかたちで表現する方法論としての可能性を持つことが示唆される。

キーワード：hana-TEM，更一般化された情感的な記号領域，
複線径路等至性アプローチ，ナラティブ・エクスプロージャー・セラピー，
コンポジションワーク，記号論的文化心理学

連絡先：土元 哲平（E-mail: tsr29magi@gmail.com）



pp. 66–77

Practice & Discussion

‘hana-TEM: Describing My Trajectory Through Art’

A Workshop Organized by the Research Exchange Committee of
the Japanese Association of TEA for Qualitative Inquiry
During the 2nd Meeting

Published: March 15, 2024

Teppei Tsuchimoto (School of Psychology, Chukyo University)

Taeko Kamikawa (Soka University)

Akiyo Nakamoto (Konan Women’s University)

Nozomu Kato (Nagoya University of Arts and Sciences)

Fuminori Nakatsubo (Hiroshima University)

Abstract

In this study, we report on the hana-TEM workshop (organized by the Research Exchange Committee) held at the ‘2nd Meeting of the Japanese Association of TEA for Qualitative Inquiry’ (Venue: Ritsumeikan University, Osaka, Ibaraki Campus) on June 11, 2023. In particular, this study focuses on the theoretical backgrounds of hana-TEM, the specific and practical context for the workshop (materials prepared and examples of collaborators involved in the workshop, among others), and the narratives of the participants with their hana-TEM. The hana-TEM was conceived with the goal of exploring and expressing the ‘hyper-generalized affective semiotic field’ overwhelming the human psyche. The workshop aims to provide a place for participants to interact with each other by depicting hana-TEM using natural materials—such as flowers and stones—and by communicating through those works of art. In addition, based on the basic ideas of TEM—multilinearity and equifinality—it seeks to more richly express ‘vagueness’ and ‘complexity’ of the feelings concerning life trajectory, without being language-oriented. As for the participants’ works, we present the hana-TEM by a participant about starting to live alone, and another about the life-career process, leading up to the ‘encounter with TEM’. The exhibition (mutual viewing and explanation of hana-TEM) was filled with excitement as the participants expressed their feelings about their own artworks through their interactions with one another. Finally, it is posited that hana-TEM may serve as a methodological approach to enrich the ‘hyper-generalized affective semiotic field’ of individuals and to express this in ways understandable to others.

keywords: hana-TEM, Hyper-generalized affective semiotic field,
Trajectory Equifinality Approach, Narrative exposure therapy, Composition work,
Semiotic cultural psychology

Correspondence concerning this article should be sent to:
Teppei Tsuchimoto (E-mail: tsr29magi@gmail.com)

I はじめに

複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach; TEA) は、その発生母体である心理学はもとより、保育学、社会学、社会福祉学、応用言語学、教育学、経営学、看護学など、多様な学問分野で用いられる質的研究法である。TEA は、時間の経過とともにある人生径路や、人間発達の多様性・複線性を重視する人間観を有しており、人間が、社会文化的・歴史的な文脈を生き、異なる径路を歩みながらも類似の結果にたどり着くことを示す等至性 (equifinality) の概念に基づいている (安田 2019)。

TEA は、複線径路等至性モデリング (Trajectory Equifinality Modeling; TEM), 歴史的構造化ご招待 (Historically Structured Inviting; HSI), 発生の三層モデル (Three Layers model of Genesis; TLMG) から構成されている (サトウ 2015; 安田 2019)。中でも TEM は、等至点

(Equifinality Point; EFP), 必須通過点 (Obligatory Passage Point; OPP), 分岐点 (Bifurcation Point; BFP), 非可逆的時間などの基本概念が整備されることから (サトウ他 2006), 径路を描くツールとしての機能も備えている。

さて、筆者らは、2023 年 6 月 11 日に「TEA と質的探究学会 第 2 回大会」(会期: 2023 年 6 月 10 日～6 月 11 日, 於: 立命館大学大阪いばらきキャンパス) において、TEA と質的探究学会研究交流委員会企画ワークショップ「hana-TEM: アートで描くわたしの径路」(以下、hana-TEM ワークショップ) を実施した (図 1)。

hana-TEM ワークショップは、TEM をより日常で実践しやすくしただけでなく、TEM のスキームを活かした文化心理学の新しい方法論のための重要な示唆を含んでいる。そこで本報告では、hana-TEM ワークショップのねらいや理論的背景などの概要、実際のワークショップの進行、参加者の作品や語り、アンケート結果について報告することで、ワークショップの全体像を浮かび上がらせる。それによって、TEM やそ

図 1 hana-TEM ワークショップの様子



の背景にある文化心理学のアイデアに基づきながら、アートによって人生径路を描くという新しい TEM の方向性を提案する。

II hana-TEM とは？

ここでは、hana-TEM とはどのようなものであるかについて、その概要と理論的背景について述べる。

1 hana-TEM ワークショップの概要

hana-TEM ワークショップへの参加を呼びかける紹介文として、以下の概要を「TEA と質的探究学会 第 2 回大会」ホームページ上に掲載した（以下、一部修正を加えてある）。

このワークショップは、アートによって人生径路を描くワークを実際に体験しながら参加者同士が交流できる場です。具体的には、花や石などの素材を用いて TEM を描き（hana-TEM と呼びます）、それをもとに他者と交流することになります。人と話すのが苦手、自分自身のことについて言語化するのには苦手、という方でも大丈夫です。ことばにする必要はありません！「さまざまな作品を眺め、感じ、浸る」ことによる共感、ないし他者の感覚と関わることを大切にします。hana-TEM は、TEM の基本的なスキームを活かしながらも、言語にこだわらずに、人生径路における「曖昧さ」や「複雑さ」をより豊かに表現することを目指します。hana-TEM を描いたり、他者と交流することは、自分自身の癒やしになります。また、芸術を通して自己・他者との対話や内省を深める効果も見込まれます。

この紹介文にも記載されている通り、hana-TEM ワークショップでは、花や石などの素材を

用いて TEM を描き、また、その作品を通して参加者同士が交流できる場を提供することを目指している。さらに、hana-TEM を描くことを通して、自己や他者との対話・内省を深めることができ、それが癒しにもつながることが見込まれる。方法論的には、TEM では言語を用いて人生径路を描こうとする傾向があるのに対し、hana-TEM では自然物（花や石）を用いることで言語の限界（明確に言語化される経験のみを扱う、あるいは、経験を明確に言語化しようとする）を乗り越えようとしている。

2 hana-TEM の理論的背景

ここで、人生径路を描く上で、なぜ言語だけでは不十分であるのかについての説明が必要であろう。それは、発達過程において重要な、美的で実存的な経験は、時に言語化できないからである。TEM の基本的なアイデアを考案したヴァルシナーは、このような「ことばを超えた」領域を、「更一般化された情感的な記号領域」（hyper-generalized affective semiotic field）と呼ぶ（Valsiner 2014; Valsiner et al. 2023 参照）。そして、この記号領域こそが、未来をかたち作る上で決定的に重要である。

さて、従来の TEM では言語によって経験を描くことが一般的であるため、言語化に慣れていない人には取り組みづらかったり、そもそも言語化しづらい経験については表現されなかったりする場合もあったと考えられる。例えば、すでに刊行された著書・論文の TEM 図とその解説を集成した『カタログ TEA』（上川他（編）2023）や、これまでの TEA/TEM 研究においても、写真や絵などを用いた TEM 図はほとんど見当たらない。このような状況にあって、hana-TEM において言語を用いずに TEM を描こうと試みるのは、上述した「更一般化された記号領域」の複雑さと豊かさを理解するための方法論が人間発達の理解に不可欠だからである。つまり、

hana-TEM では、TEM の基本的な思想—複線性と等至性—を基礎としながらも、言語にこだわらずに、人生径路における「曖昧さ」や「複雑さ」をより豊かに表現しようとするのである。

こうした考えに基づいて、hana-TEM のワークショップを構想した。この構想において重視したのは、(A) TEM の枠組みに基づきつつ、(B) 精神における複雑で豊かな「更一般化された情感的な記号領域」を探究・表現する方法を見出すことであった。とりわけ、hana-TEM は、ナラティブ・エクスポージャー・セラピー（以下、NET；Schauer et al. 2011=2023）の第2セッションで用いられる「人生ライン」から構想を得た。NET では、「個人レベルでは想像暴露の方式 […] 中略 […]」でトラウマ物語の語りを促し、過去のトラウマの後継を再体験することで治療を行う。目標は、トラウマ的でストレスに満ちた出来事が起こった瞬間に構築された恐怖ネットワークの修正を可能にすることである」（Schauer et al. 2011=2023: 15）。NET の文脈では、1本の紐を人生の流れとして、その上に花（幸せな出来事や良い時間）と石（トラウマ的な出来事）を置いていく。この儀式は、それほど詳細に人生を描けなかったり完結しなかったりしても、重要な自伝的出来事と人生変化を概観するために重要である（Schauer et al. 2011=2023）。

NET のように、これまで（過去）の人生のつながりを見出したり概観したりする上では、人生を一本の線で結びつけ、筋立てることが必要となる。しかし、hana-TEM は、治療目的というよりは、個人的経験を通じた交流を目的としている。さらに、hana-TEM は TEM の思想の流れにあることから、人生が複線的であるという前提のもとで、「ありえた選択肢」や「将来の可能性」を想像し、自分自身の人生を前に進めていくことも重要となってくる。そのため、筆者らは、hana-TEM では、1本の線で出来事を結びつけることにこだわる必要はないと考えている。

さらに、NET においては、石はトラウマ（ネガティブな経験）の象徴として用いているが、

この点は、コンポジションワーク（Konopka & van Beers 2014）を参考に修正を加えた。コンポジションワークは、TEA/TEM と関係が深い対話的自己論に基づいた自己発達のための手法であり、参加者は、複数の石を用いて自己のアイデンティティを布置・表現する。この手法において、石は様々な自己の I-ポジション（例えば父親としての私、日本人としての私、教師としての私など）を象徴しており、ネガティブな意味に限られていない。このように、素材となる自然物への意味づけをあえて方向づけないほうが、より参加者に自由に意味づけすることを促し、主観的で多様な人生径路を豊かに記述することにつながると考えられる。

III hana-TEM ワークショップの実際

ここでは、hana-TEM ワークショップの実施にあたって、具体的・实际的に必要なであったスケジュール、テーマの設定、準備等について述べる。

1 タイムスケジュールについて

hana-TEM ワークショップは、合計で2時間のワークショップであった。以下にそのタイムスケジュールおよび時間配分を示す。ここで、「個人／ペアで hana-TEM を描く」については次のような意図がある。hana-TEM は個人でも実施可能であるが、限られた時間の中で、経験に対する内省を深める必要がある。また、個人的経験の語りや反すう的（何度も過去の辛い経験を繰り返し想起するなど）になることを避け、より安全に語れる空間を創る必要があった。そのため、ペアを作成し、互いに hana-TEM で描く内容について相談やインタビューを行いながら、hana-TEM を描いてもらうこととした。なお、「hana-TEM の例示」および「展覧会」につ

- ・導入（計 25 分）
 - hana-TEM ワークショップの概要（15 分）
 - hana-TEM の例示（5 分）
 - 材料についての説明（5 分）
- ・個人／ペアで hana-TEM を描く（計 50 分）
 - ペアを作って自己紹介。テーマについて相談、相互インタビュー（10 分）
 - 材料を準備し、各自で hana-TEM を描く（30 分）
 - ペアの相手に hana-TEM を見せて説明（10 分）
- ・休憩（5 分）
- ・展覧会（30 分）
- ・質疑応答（10 分）

いては後述する。

2 テーマと語りの指針について

hana-TEM を描いてもらう際に、テーマとして「ちょっと聴いてほしい自分のこと」を設定した。さらに、今回は hana-TEM の体験であることを伝え、「現在の研究テーマとの出会い、キャリア、教育実践、親になること、研究者として生きること、最近のご機嫌な出来事、もやもとした出来事」など、他のテーマに設定することも可能であると伝えた。

同時に、参加者には、具体的に考える必要はないこと、まずは花や素材で表現することによって生まれる感覚を感じてみるのが大切であること、ライフライン（人生曲線）を補助的に描いたり、補助的に言葉による説明を加えたりしてもよいことを伝えた。さらに hana-TEM では、個人的経験が題材となるため、ペアの相手と語る際の「安心して語るための指針」として、以下の項目を示した（一部修正を加えてある）。

1. 敬意をもって接しましょう。
2. 気になったことはどんどん質問してください。
3. 話したくないことは無理に話さなくて結構

です。

4. 「否定」をしないでください（人生径路に正解はありません）。
5. 自分のことばで「粹づけて」話を聞かないでください（他者が用いている特別なことばや意味づけを大切にしましょう）。
6. 「内面」を探ろうとしないでください。

3 材料の準備について

hana-TEM を実施するにあたり、用意したものは表 1、図 2 の通りである。準備にあたっては自然物にこだわり、石以外にも植物の種子や実、松ぼっくり、貝なども用意した。また、花についても生花を使用したため、会場近辺のフラワーショップに事前予約しておき、当日の朝に受け取った。生花の種類はフラワーショップ店員のアドバイスを受け、季節の花の中から赤、ピンク、黄色、青、白、水色、オレンジと様々な色また大小異なる大きさとなるように選定した。費用を抑えるために、スプレーバラやスプレーカーネーションという 1 本の茎から多くの花をつける種類の生花も薦めてもらい、これも購入した。

表1 当日の準備物

準備物	個数/一人当たり
生花	4本まで
石	3個まで
その他の自然物 (種子・松ぼっくり・貝など)	3個まで
A3用紙	1枚
油性ペン	適宜
新聞紙	適宜
剪定鋏	必要時
持ち帰り用ビニール袋 ティッシュ	適宜

4 hana-TEM の例示：「機嫌よく保育園を出る」

ここでは、本ワークショップの hana-TEM の分析方法に関する説明で用いた花江さん（30 代女性、仮名）の事例について紹介する。花江さんは hana-TEM の意義を「自分を癒す TEM」で

あると理解した上で、自身の日常生活における「保育園のお迎え時」のある出来事について振り返った。以下では協力者に関する概要と hana-TEM 図を描く背景となった語りについて記述し、hana-TEM 図を描いた結果について述べる。

(1) 花江さんに関する概要

—人物紹介と育児に対する思い

花江さんは第一子を出産し、産後 4 か月のころに非常勤として仕事に復帰するという経験をした。そのため、慣らし保育を含めて第一子を 2, 3 か月のころから保育園に預けることになった。初めは 1 時間から 2 時間ほどの保育であったが、「こんなにも小さいときから預けることになって本当に大丈夫なのか」といった漠然とした不安や感情がこみ上げることが多かった。しかし、実家と自宅が長距離で離れていたこともあり、育児に関する悩みや相談事を保育者や事務の方々にすぐ相談できる環境が整ったことは本当に有難いことだった。

図2 準備した材料



(2) 保育園のお迎え時のある日のエピソード —ある一言に対する“モヤモヤ感”

子どもが1歳半を過ぎたあるお迎え時の出来事だった。言葉も少しずつ出てくるようになった我が子が、ある保育者と一緒に玄関までやってくるまでの話し声が聞こえてきた。なにやら「パパ、パパ」と言って楽しそうに声を出している様子だったが、その「パパ」という言葉を聞いた保育者が「パパ“が”好きなの?」と言ったのが聞こえてきた。保育者と子どものやり取りは階段を下りてくる途中のやり取りで、迎えに行っている花江さんの顔が二人に見えていたわけではなかった。ただ、「パパが好きなの?」という保育者の言葉を聞いたとき、花江さんは何とも言えないモヤモヤした歪（いびつ）な気持ちになった。保育者の「パパが好きなの?」という言葉は子どもに対して発した言葉であり、二人が楽しくやり取りをしているということは花江さんも理解していた。花江さんは保育者を信頼

していることに変わりにはなかったが、「パパが好きなの?」という言葉は「パパ」と「ママ」を比較するような言葉として当時の花江さんには聞こえてしまい、その日は複雑な気持ちを抱えながら保育園を出た。そして、「何も気にするようなことではない」と思いながらも、家に帰って我が子に食事を食べさせているとき、花江さんの目からは涙がこぼれた。

(3) hana-TEM 図の描き方

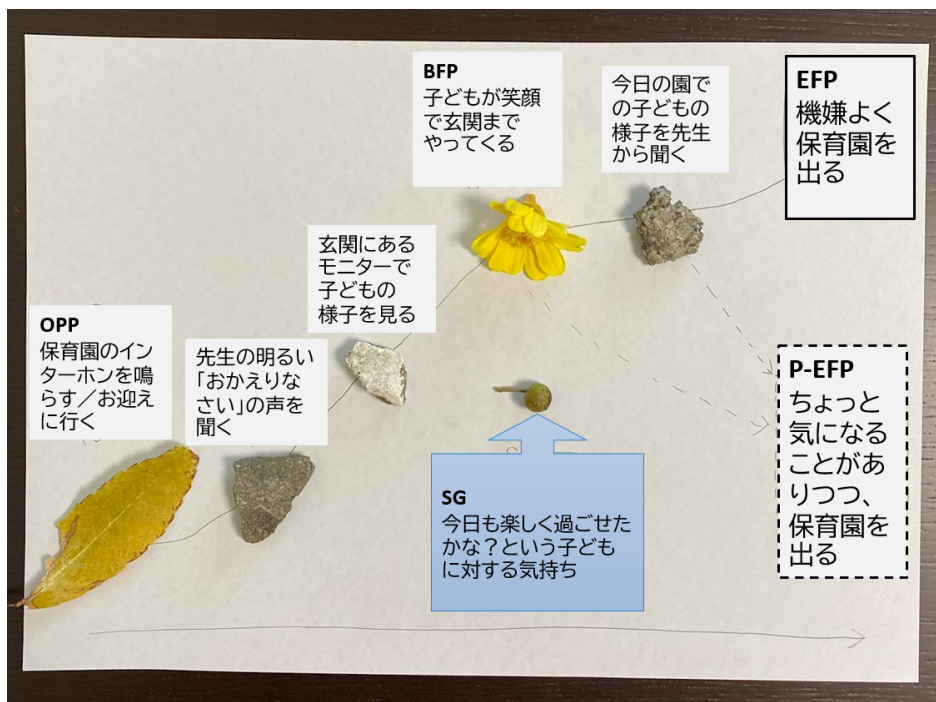
—日常生活で感じたエピソードの捉えなおし

上述したエピソードは日常生活の中の一部の些細な出来事であったが、花江さんはこの時の自分を癒す TEM として hana-TEM 図を描くことに決め、「等至点」を普段経験している「機嫌よく保育園を出る」に設定した（図3）。

(4) hana-TEM 図を描いてみて

今回、hana-TEM 図を描いたことで重要だと

図3 花江さんの hana-TEM 図



感じたことは、花江さんにとって「我が子が笑顔（楽しそう）であることが最も重要なことだ」ということに改めて意味を感じることができたことである。子育てと仕事という日常生活を始めて1年が過ぎていたとはいえ、我が子を2、3か月のころから保育園に預けるという経験をした花江さんには子育てに対する不安や普段は言葉にしていない感情が心の奥に残っており、そのことが当時の保育者の言葉に対して敏感に反応してしまったのではないかと自らを振り返った。しかし、hana-TEMによって日常的に「機嫌よく保育園を出る」ことができている様子を可視化したことで、保育者のインターホン越しでの明るい対応や保育室での子どもたちの様子がわかるモニターの設置など、子どもたちだけではなく保護者への配慮も気にかけているということを実感した。この気づきによって保育者への日々の感謝を改めて感じることで、辛く感じた一時の自分を癒すことができた。また、今回の hana-TEM 図で使用した石や葉っぱは我が子が保育園の帰り道で拾ったものを使い、普段は強く意識していなかった日常生活のごく自然な一風景を表現した。BFP には我が子の好きな色である黄色い花を飾ることで、我が子の笑顔と花江さん自身の明るい気持ちを表すことができ、保育者のおかげで子育てをしながら仕事ができる環境が整っていることへの感謝に対する意味合いが増した。そして、育児と仕事の両立に対する不安な気持ちが増した時にはこの hana-TEM 図を思い出し、自分の気持ちを落ち着かせながら日々の生活について考えることができるようになっていたと語った。

5 展覧会について

ペアでお互いの作品について説明し合った後に、30 分間の展覧会の時間を設けた。ペアで「観覧者」と「解説者」に分かれ、交代で他の作品を観覧することとした。まず、はじめの 10 分

間はペアのうち一名（A）が他の作品を自由に観覧して回り、もう一名（B）はその場に留まり、観覧者へ作品について解説した。留まっている B は、自分の作品だけでなく A の作品についても観覧者へ説明した。次に A と B が交代し、一名（B）が他の作品を観覧している間は、もう一名（A）がその場に留まり解説者となった。予定では、再度ペアに戻り、最後の 10 分間で観覧して感じたことを共有し振り返る時間として企画していたが、観覧に時間を要したことから、ペアでの振り返り時間を十分設けることができなかった。しかし、それは非常に活発な展覧会になったことをも意味している。

IV hana-TEM ワークショップを終えて：参加者の作品とアンケート

ここでは、hana-TEM ワークショップの参加者の作品（掲載許可を得たもの）と、それについての語りを示す。また、終了後の参加者へのアンケート結果についても簡潔に紹介する。

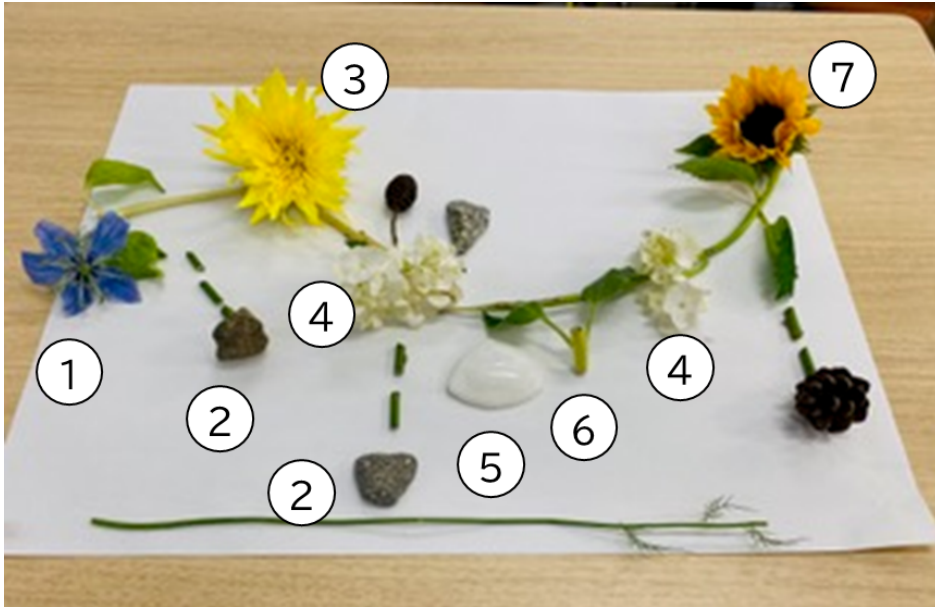
1 参加者の作品 1

木村さん（50 代女性、仮名）は、hana-TEM を描くにあたり、直近の自分に起きた大きな変化である引っ越しを取り上げた。

木村さんは、ひとり暮らしを始めたことを嬉しく思っており、まず、このことを自分の好きな色である青色の花で表現した（図 4 の①）。実はこの引っ越しの必然性は低く、木村さんには引っ越さないという選択もあった。そこで、以前家に住み続けることは、意図的に重たい石で表現した（図 4 の②）。

ひとり暮らしを始めてからは、誰に遠慮することも文句を言われることもなく、好きな時間にお風呂に入れること、自分のためだけに食事を作れることの自由を味わい、心から生活を楽

図4 木村さんの hana-TEM 図



しいと感じ、黄色の花でそれを表現した（図4の③）。しかし、ときどき感じる寂しさやモヤモヤした気持ちもどこかにあり、そのことを白いアジサイで表現した（図4の④）。それでも友だちが遊びに来てくれたり（社会的助勢; Social Guidance, SG: 図4の⑤）、我が子が自立して前向きに生活している姿に触れたりする（SG: 図4の⑥）ことで、ひとり暮らしを継続している。そしてこの hana-TEM を描きながら、自分のこれまでの選択を肯定的に捉えることができ、きっとこれからも大丈夫という気持ちを大きなヒマワリで表した（図4の⑦）。

2 参加者の作品 2

上田さん（40代女性、仮名）は、EFP（図5の⑦）「TEM との出会い」に至るまでの自身のキャリアとライフイベントを hana-TEM で表現した。

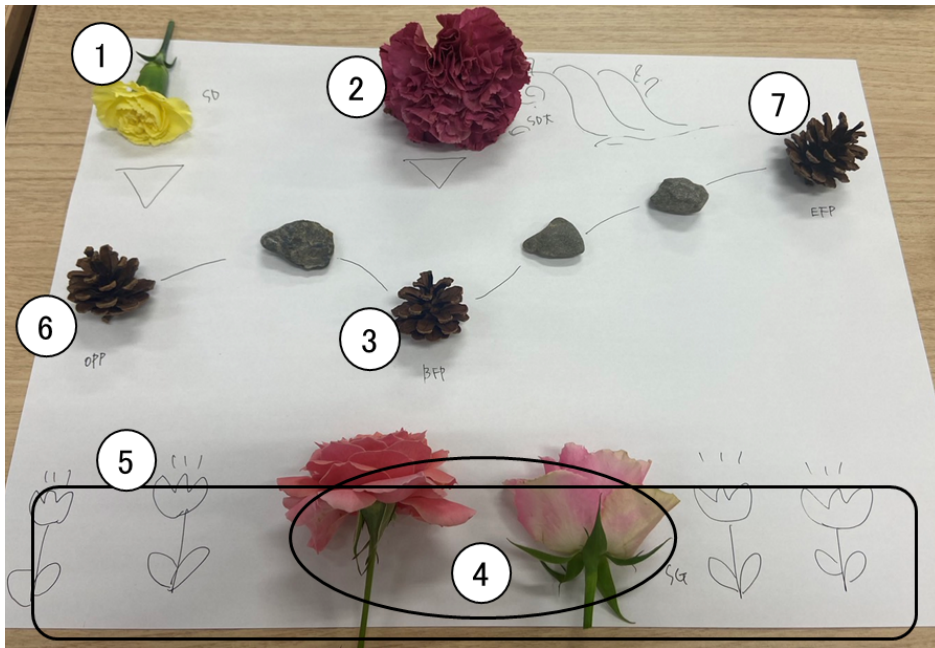
上田さんは、順調な職業キャリア形成を阻害させた要因として出産を花で表した（社会的方向づけ; Social Direction, SD: 図5の①）。また、

思いがけない家族の不調や夫の単身赴任など職業キャリアを阻害する出来事（SD: 図5の②）が重なり退職（BFP: 図5の③）することになったが、その出来事も花で表した。SD を花で表したのは、「順調なキャリアを積む上では阻害要因であるが、自分にとってマイナスなことではなく自分が必要とされている証」だと感じているからである。そして、「家族との関係性が花開いている」ことを表現するために大きな花を使った（図5の②）。また、支えとなった他者の存在（SG: 図5の④）だけでなく、「常にモチベーションが花開いている」という感覚（SG: 図5の⑤）が自分のライフキャリアを後押ししていると感じている。上田さんは、「自分が過ごす日々の中に実りがある」と感じており、ライフキャリアを辿る中で生じた OPP（図5の⑥）、BFP（図5の③）、EFP（図5の⑦）を「実り」として松ぼっくりで表した。

3. 参加者へのアンケート結果

hana-TEM ワークショップ終了後に、参加者

図5 上田さんの hana-TEM 図



アンケートを実施し、21名（回答率 70.0%）から回答を得た。【今回の企画に興味は持てたか】の質問に対し、全員が「大いに興味をもてた」と回答した。その理由として、花や石などの自然素材を使用したワークであった、TEMとアートという体験型企画に関心をもった、自分の分野でも活用したいと感じた、TEMの原点やこれからの可能性を感じることができたといった意見があがった。【企画の構成としての時間配分】については、「適切であった」76.2%、「まずまず適切であった」19.0%、「あまり適切でなかった」4.8%という回答であった。「適切であった」と回答した中には、集中した状態を継続しながらも負担をあまり感じることなく参加できたことや、これ以上時間をかけると疲労感が出ると思うといった意見があった一方で、「まずまず適切であった」「適切でなかった」と回答した理由に、展示会の時間が短かった、もう少し振り返る時間があると意味づけできたのではないかとといった意見もあがった。また、hana-TEMがNETの援用である以上、セラピーであることを忘れてはならないといった意見もあった。

V おわりに

本報告では、hana-TEM ワークショップのねらいや理論的背景などの概要、実際のワークショップの進行、参加者の作品や語り、アンケート結果について報告した。

本ワークショップの展示会では、参加者らは、「観覧する」「解説する」という相互のやり取りのなかで自らの作品に対する思いが溢れ出し、熱気に包まれていたと筆者らには感じられた。これには、hana-TEMにおいて、「生花」（や自然物）を用いたことが、一つの理由として挙げられるが、ワークショップの枠組みがTEA/TEMであったこと—参加者にとって、ある種の人生哲学かもしれない—も、もう一つの理由であるといえるだろう。このように、少なくない参加者にとって、hana-TEMを描いたり、他者とhana-TEMを介して語り合うことが、心を揺さぶられるような経験となり得たことを強調しておきたい。このことは、hana-TEMが、個々人

の「更一般化された情感的な記号領域」を深め、それを他者に理解可能なかたちで表現する方法論としての可能性を持つことを示唆している。

VI 引用文献

- Konopka, A. & Van Beers, W. (2014) Compositionwork: A method for self-investigation. *Journal of Constructivist Psychology*, 27 (3), 194–210. <https://doi.org/10.1080/10720537.2014.904703>
- サトウタツヤ (2015) 複線径路等至性アプローチ (TEA). 安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ (編) TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ. 新曜社, 4–8.
- サトウタツヤ・安田裕子 (監修) 上川多恵子・宮下太陽・伊東美智子・小澤伊久美 (編) (2023) カタログ TEA—図で響き合う. 新曜社.
- サトウタツヤ・安田裕子・木戸彩恵・高田沙織・ヤーン ヴァルシナー (2006) 複線径路・等至性モデル—人生径路の多様性を描く質的心理学の新しい方法論を目指して. 質的心理学研究, 5, 255–275.
- Schauer, M., Neuner, F., & Elbert, T. (2011) Narrative Exposure Therapy: A Short-term Treatment for Traumatic Stress Disorders (2nd Ed.). Hogrefe Publishing. 森茂起・森年恵 (訳) (2023) ナラティブ・エクスポージャー・セラピー 第2版—人生史を語るトラウマ治療. 金剛出版.
- Valsiner, J. (2014) *An Invitation to Cultural Psychology*. SAGE.
- Valsiner, J., Tsuchimoto, T., Ozawa, I., Chen, X., & Horie, K. (2023) The Inter-Modal Pre-Construction Method (IMPreC): Exploring Hyper-Generalization. *Human Arenas*, 6, 580–598.
- 安田裕子 (2019) TEA (複線径路等至性アプローチ). サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実 (編) ワードマップ 質的研究法マッピング. 新曜社, 16–22.

編集・制作協力：特定非営利活動法人 ratik

<https://ratik.org>

